

# 大串ひろやす通信

発行責任者 千代田区議会公明党議員団 大串ひろやす 〒102-0083 千代田区麹町2丁目14-305 Tel/Fax 03-3221-1554 <http://www.h-ogushi.com/>

この通信では

「調査なくして発言なし」とは公明党の伝統です！会派の政治活動の成果を定例会ごと通信として発行しています。ご意見、ご感想をお待ちしています！



| ページ | コーナー    | 内容                                  |
|-----|---------|-------------------------------------|
| 1   | トップページ  | ◇ 永遠の宝物をすべての子どもに！                   |
| 2~3 | 本会議質問   | ◇ 子どもの読書活動を推進 ② コミュニティ道路の整備を！       |
| 4   | ちょっと教えて | ◇ オープンデータの持つ「大いなる可能性」               |
| 4   | 朗報      | ◇ 地域活動提案事業が好評です！                    |
| -   | コラム     | ① 永遠の宝物 ② 道の持つコミュニティ文化 ③ 区の区画道路整備方針 |

## 永遠の宝物をすべての子どもに



映画「じんじん」のポスターを提示して

**新**年、明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年の第3回定例会では、映画「じんじん」を紹介し、北海道剣淵町のように、区を挙げて子どもの読書活動推進に取り組んではと質問しました。絵本の読み聞かせをした時間は子どもにとっても親にとっても「永遠の宝物」です。  
 （コラム1）この「永遠の宝物」をすべての子どもが受け取れるように、「子どもの読書活動推進のまち、千代田区」を目指したい。そのことが質問の主旨でした。すばらしい図書館があり、本の街、神保町があり、何よりも読み聞かせに参加したいという多くの区民の方々がいます。千代田区には、このようなすばらしい環境があります。実現できるよう今後とも頑張ってまいります。

# 子どもの読書活動を推進



映画「じんじん」のポスターを提示して

## 1. 子ども読書活動推進の まち、千代田を目指して!

**問** 読み聞かせをした時間は子どもにとっても親にとっても永遠の宝物だ。(コラム1) 永遠の宝物をすべての子どもへ「子ども読書活動推進のまち、千代田」を目指したい。そのためには読書活動に関わる人材の育成とボランティア活動への支援が必要だが、どう行っていくのか。また、読み聞かせのための講座を受講された方を仮称「読み聞かせコンシェルジュ」として認定する制度を設けてはどうか。

**答** 〈区長答弁〉  
子ども時代に読書という生活習慣をつくっていくことは、子育ての中で心を育てるという意味で非常に重要なことと認識している。今後も図書館と読書振興センターのさまざまな事業はしっかりと取り組むことを明快に申し上げる。

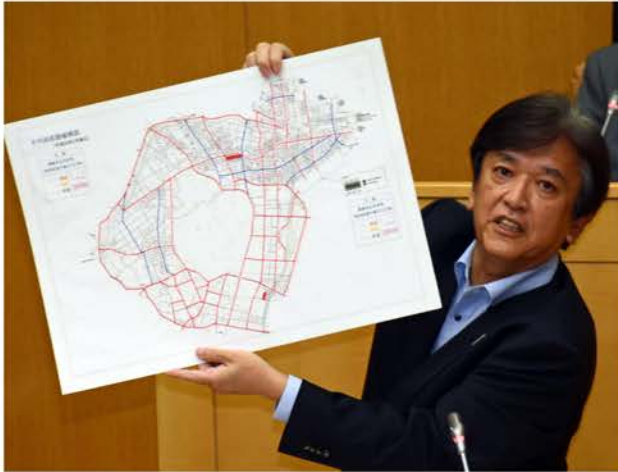
**答** 〈区民生活部長答弁〉  
子どもの読書活動に関わる方々へのセミナーや講演会等学びの場の提供や活動支援、そして絵本の読み聞かせ講座の開催など読み聞かせボランティアの育成等一層充実していく。また、「読み聞かせコンシェルジュ」のような仕組みの導入も検討していく。

### コラム1

#### 永遠の宝物

**映**画「じんじん」を見て本当に感動した。主演の大地康雄さんは絵本の読み聞かせをした時間は「永遠の宝物」であるという。すばらしい表現だ。大地さんは、絵本の魅力に驚かれたそうですねとのインタビューに「読み聞かせが始まると、子どもたちは吸い寄せられるように絵本ににじりよっていきじゃないですか。大笑いしたと思ったら、今度は涙を浮かべて、じっと見入っている。びっくりしました」と答える。また、絵本の魅力はどこにありますかとの質問には「子どもは勿論ですが、親にとっても読み聞かせをした時間というのは、**永遠の宝物**ではないでしょうか。先行試写会では小学生から大人までみな同じ場面で涙ぐんでいる。純粋なモノを思い出させてくれるのは、やはり絵本の力だと思います。(中略)子育てで悩んでいるお母さん、人とうまく付き合っていない人、目先のことに振り回されている人に見て欲しい。一番大切なことをこの映画を見て思い出してもらえればうれしいですね」と。(25年3月31日の読売新聞より) 同感!

# コミュニティ道路の整備を！



区の幹線道路・区画道路図を提示して

コラム2

## 道の持つコミュニティ文化

**黒**川貴章氏は道路について、以下のように述べる。「日本の都市で西欧のような広場を発見することはできない。・・・お寺には広い境内があるが、それは公共の広場ではない。その代わりに日本には〈路地〉があった。・・・路地は独特な「中間領域」でプライベートとパブリックをつなぐユニークな共有空間として機能していて、それがコミュニケーションの場となっていた。・・・江戸時代の路地を挟んだコミュニティ、いわゆる「向こう三軒両隣」には多様な人たちが住んでいて、それが独特な日本の都市文化をつくりだしていたのである。・・・日本の、〈路地〉の復活が、未来都市の鍵となる。車の通る道路ではなく、人間の歩く道路、路地を中心としたまちづくりがいかに重要であるかを『都市デザイン』で論じた。当時、たまたま都市学者ジェーン・ジェイコブスの『アメリカ大都市の死と生』という本を読んだ。それは路地のコミュニティ文化を重視しないとアメリカの大都市は死んでいくと警告を発するものだった。まさに私と同じ考えを持つ仲間だ」と。同感！

## 2. どのようなビジョンを持って道路整備を行っていくのか

**問** 区画道路整備について、都市計画マスタープランには「通過交通の抑制と歩車共存型道路の形成に努め、地域のコミュニティ空間として機能するよう整備する」とある。（コラム3）大いに評価できるものだ。改めて道路のあり方、役割をどう認識しどのようなビジョンを持って整備するのかを問う。

**答** 〈区長答弁〉  
道路は重要な交通インフラであるとともに、人々の交流や生活の場であり、地域コミュニティを創出する上で大変貴重な空間であると考えます。

## 3. コミュニティ道路の整備を計画的に進めよ

**問** コミュニティ道路整備を計画的に推進するための「コミュニティ道路整備計画」の策定を提案する。所見は。

**答** 〈都市基盤整備担当部長答弁〉  
生活道路は人中心の道路であることに力点を置きながら、これまでのさまざまな取り組みを踏まえ、その方向性を模索していく。

# ちょっと教えて



# 朗報



## オープンデータの持つ 大いなる可能性！

## 地域福祉活動提案事業が スタートしました

**現**在、①スマホの普及と②アプリの開発そして③オープンガバメントという考え方の普及が同時に進んでいる。今や、行政にとってオープンデータの推進は喫緊の課題といってもよいだろう。

オープンデータとは、国や自治体などの公的機関が保有する公共データを、誰もが編集・加工等をしやすい形式で公開し、住民や企業が新たな資源として活用できることだ。またオープンガバメントという考え方は、オバマ大統領が就任直後の演説で述べた「透明性の原則」、「参加の原則」、「協働の原則」という3原則をいう。つまり、この3原則の基本に合うよう、行政のオープンデータによるアプリを開発し有効に活用しようということだ。スマホの普及とアプリの開発はそのことを可能とした。アプリは区民の参加と協働を進め地域のコミュニティの形成につながる。先進自治体の千葉市はこのことを「大いなる可能性」と呼んだ。アプリ「ちあレポ」はすでにスタートし、市民に好評だ。



**社**会福祉協議会が実施する事業で、平成26年度よりスタートした。地域福祉活動を行う区民やボランティア団体などから地域活動の提案を求め、審査会により採択された地域コミュニティの形成に資する活動について支援するという事業だ。すでに10の提案が事業として採択された。大変好評な事業だ。

### コラム3

#### 区画道路整備方針

**道**路には、幹線道路と区画道路の二種類がある。一般に、国道と都道は幹線道路、区道は区画道路だ。そして、幹線道路は通過交通のための道路であり、区画道路は人のためのコミュニティ道路と分けられるだろう。よって、区画道路整備にあたっての考え方、方針が大事となる。区の都市計画マスタープランには「道路・交通体系整備の方針図」が示され、区画道路整備方針が示されている。「歩行者の利用も多いため、通過交通の抑制と歩車共存型道路の形成に努め、地域のコミュニティ空間として機能するように整備します」と。道路を「地域のコミュニティ空間」として捉えるとは、黒川氏やジェイコブスがいうところの「道の持つコミュニティ文化」（コラム2）と同じ意味だ。マスタープランは16年前に策定されたものだが、区画道路についてこのような整備方針を明確にしていることに改めて敬意を表したい。

### 編集後記

**編**映画「じんじん」の試写会を見る機会があった。絵本の読み聞かせの大切さ、素晴らしさを改めて認識した。またこの感動的な映画でできるだけ多くの人に見てもらいたいと思った。「絵本の

読み聞かせをした時間は子どもにとっても親にとっても永遠の宝物だ」と主役の大地康雄氏はいう。まさにその通りである。すべての子どもたちのその永遠の宝物を渡したい。